

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく4

国立市立国立第七小学校

平成28年7月8日 NO.32 (332)

モンタ博士「ふむふむ。なるほど。なるほど。」

花ちゃん「モンタ博士。何をさっきから一人ひでうなづいているんですか。」

モンタ博士「昨日の『国立てくてく4』をよんでおもしろかったから、と図書館からクモの本を借りたら、またまたおもしろいことがか書いてあったのさ。それで、いま むちゅうになってよんでいるのさ。」

オー君「へえー。どんなことですか。ぼくにもお教えてください。」

モンタ博士「クモはす巣をはって、そこにひっかかった虫をたべるだろう。でも、どうしてクモは自分のつくったす巣にひっかからないかということがかくわしく書いてあってね、モンタ博士もものべんきょうになったんだ。」

花ちゃん「なんかとってもたのす楽しそうですね。どうしてす巣にひっかからないのですか。」

オー君「ぼくたちにもおし教えてください。」

モンタ博士「あのね、クモはいとよこいとりょうほうの両方がネバネバしているわけではなくて、よこいと横系だけがネバネバしているのさ。だから、クモはいとうえある上だけをある歩いていうわけさ。それにクモのあしにはあぶらいとのようなものがいとついていて、いとがくっつかないようになっているんだ。」

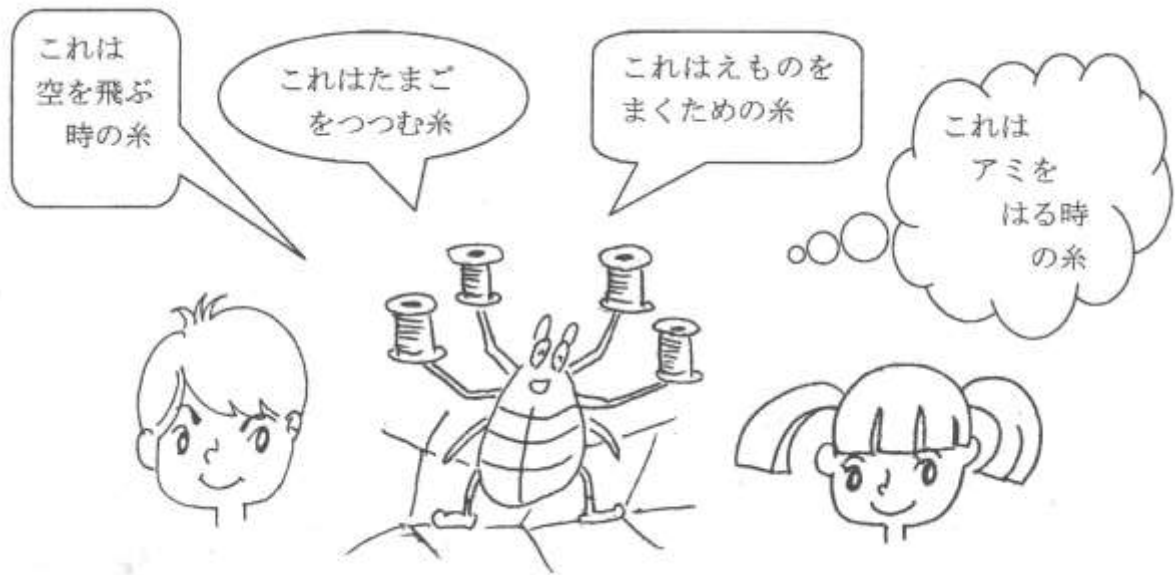
花ちゃん「なかなかうまくできているんですね。かんしん感心しますね。」

オー君「モンタ博士、ほかにクモのひみつひみつ秘密はないんですか。」

モンタ博士「あのね、クモはね、もくてき目的によっていろいろないとふとせいしつ系の太さや性質をかえることができるんだって。すごいね。たとえば、あみときいとす網をはる時の系、す巣にひっかかったえものをクルクルといといとまくための系、いとたまごをつついといとむす系、それからね、そらと飛ぶためのいと系などがあるんだよ。」

花ちゃん「みんなおないとおも同じような系かと思っていたけど、いろいろあるんですね。」

オー君「へー！よくつかわまちがえないで、かんしん使い分けているね。感心しますね。」



花ちゃん 「ところで、クモは日本に何種類くらいいるんだっけ。」

オー君 「えーと、昨日のお話では、1000種類とかいてありました。」

花ちゃん 「モンタ博士、それらはみんな網をはるのですか。」

モンタ博士 「網をはるクモは、その中の半分くらいだそうだ。校長室前にいるコガネグモやよく見かけるオニグモは丸い網を作るんだ。」

オー君 「クモによって網の形はいろいろなんですね。」

モンタ博士 「クモの網のお話は、また今度してあげよう。ところで、網は、雨や風などですぐにいたんだり、ほこりがついて使い物にならなくなるんだよ。それで、モンタ博士もおどろいたけど、クモは、1日か2日ではりかえるそうだよ。クモもいろいろと苦労しているね。さらに、網を作りかえる時に、なんと、古い網を食べてリサイクルするというから、たまげちゃうね。」

花ちゃん 「すごい虫？いや、クモは虫じゃなかったわ。足が8本だもんね。」

オー君 「ムカデのように足がいっぱいあるやつも虫じゃないし、どうなってるんだ？」

界・門・綱・目・科・属・種 (かい・もん・こう・もく・か・ぞく・しゅ)

上の界・門・綱・目・科・属・種とは、全生物の分類単位を表したものです。動物を例にとると、門は脊椎動物とか、軟体動物とか、節足動物とかになります。サンマやカエル、キョウリュウ、ヒトは、背骨＝脊椎骨をもつということで、脊椎動物門になります。昆虫は、節足動物といい、節のある足を持つということです。エビ、カニ、クモ、ダニ、サソリ、ムカデはすべて節のある足を持っています。つまり、節足動物の門というレベルでは同じ動物と言えるでしょう。

モンシロチョウを例にとると、動物界—節足動物門—昆虫綱—チョウ目—シロチョウ科—モンシロチョウ属—モンシロチョウ(種)となります。クモはクモ形動物綱となり、ムカデ、ヤスデは多足動物綱となり、ダンゴムシは甲殻動物綱となります。

植物界も種子植物門—単子葉植物綱とかいろいろあります。詳しくはまた後日！